

Social Distance を保つための公開コンペ 「はなれてつなぐ」

A 部門(空間デザイン部門) 審査結果

2020/9/30

A 部門(空間デザイン部門)審査委員長
多賀謙蔵(工学研究科教授)

A 部門(空間デザイン部門)

最優秀賞

大西琴子、曹陽

「なみのゆらぎ 一波ベンチではなれてつなぐー」



提出された案のイメージ図(提出された pdf より抜粋)

優秀賞

永本聡、西村涼、岩橋美結、木崎理沙、周賢人、松下沙絵、山荘日捺子、坂本すず、米光葵
「イエとはらっぱのちょうどあいだ。」



提出された案のイメージ図(提出された pdf より抜粋)

優秀賞

小池晃弘

「場を彩る「色踊る場」



提出された案のイメージ図(提出された pdf より抜粋)

本コンペティションは、大学キャンパスという地域の憩いの場でありながら実験的な取り組みを
実践可能な空間を題材とし、ポストコロナ時代を見据えた「はなれてつなぐ」アイデアを募集し、
かつすぐれた案の実現をサポートするとともに、その案の実効性を評価することを目的としたもの
である。

7月14日に本コンペティションはアナウンスされ、9月7日の締め切りまでに10点の応募案が
提出された。これに対し、空間デザイン部門の9名の審査委員(遠藤秀平、大村直人、小池淳司、
多賀謙蔵、長坂一郎、栗山尚子、中江研、浅井保、祇園景子)が審査を行った。まず1次審査では、
デザイン性、敷地との整合性、独創性、実現性、普及性の観点から1~5の5段階で評価を行った。
続いて2次審査では、遠隔会議で9名の審査委員がそれぞれ講評を行い、審査のポイントや高く評
価した案について説明を行った。その後、委員長提案により、1次審査結果(単純集計の平均値を
100点満点に換算したものが60点以上となる7案について、審査員それぞれが3案に1点ずつ点
数を付与する形で1回目の投票を行った。この結果、最優秀賞の案が満票であったため、この時点
で最優秀賞を確定した。その後、最優秀賞案を除いた6案のうち、1回目の投票で点数の獲得がな
かった2案を除く4案について、審査委員がそれぞれ1案に1点を付与する形で2回目の投票を行
ったところ、優秀賞の2案の点数が上位となったため、2案を優秀賞とした。なお、募集要項では、
最優秀賞(1点)、佳作(数点)としていたが、優秀賞となった2案のレベルも高いと判断されたため、
この2案の賞は優秀賞とすることとなった。

最優秀賞を受賞した「なみのゆらぎ 一波ベンチではなれてつなぐー」は、デザイン性の高さ、
座ることと離れることをうまく結びつけている点、対面とならない配置の工夫、場所との調和性の
高さ、視点の交流する仕組み等が高く評価された。

優秀賞を受賞した「イエとはらっぱのちょうどあいだ。」は、新規性や様々な世代の利用が想
定される点等が高く評価された。また、同じく優秀賞を受賞した「場を彩る「色踊る場」」は、オ
リジナリティの高さ、マスクやフェイスシールドとの親和性、あえて座る場所を設置せずにコロナ
下の状況に対応した点等が高く評価された。

なお、最優秀賞案に沿ったベンチやポールの設置等に際しては、管理者の目が届かない休日の利
用も想定した上で、材料や設置方法などを管理者と十分調整し安全確保に留意することを要望する
こととなった。最優秀賞案と優秀賞案の全体の pdf へのリンクを下記に示す。

A 部門(空間デザイン部門)

最優秀賞

大西琴子、曹陽

「なみのゆらぎ ー波ベンチではなれてつなぐー」

優秀賞

永本聡、西村涼、岩橋美結、木崎理沙、周賢人、松下沙絵、山莊日捺子、坂本すず、米光葵

「イエとはらっぱのちょうどあいだ。」

優秀賞

小池晃弘

「場を彩る「色踊る場」